

1. 単元構想 3年国語 登場人物について、話し合おう「モチモチの木」 (全11時間)

単元
目標

- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像することができる。
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

読書タイム・読書週間
斎藤隆介作品の読み聞かせ

「モチモチの木」はどんなお話かな？①②③

題名読み・全文通読・初発の感想をもとう①

- ・「モチモチの木」は、どんなお話かな？ ・知っているよ
- ・モチモチの木って、どんな木かな？
- ・モチモチがおいしそう ・お餅みたいなものが作れる実がなる
- ・こわい感じがするね ・モチモチした木じゃない？
- ・すごく大きい木なんだね
- ・早くお話を読んでみたい

物語の内容を確認しよう③

- ・登場人物はだれかな
- ・豆太が主人公
- ・対人物は、じさまかな？モチモチの木かな？
- ・モチモチの木は人物じゃないよ
- ・「モチモチの木」はどんな話？
- ・豆太が勇気を出してじさまのはらいたをなおす話
- ・おくびょう豆太がじさまのために勇気を出す話
- ・豆太がじさまを助けるけど、
またおくびょうな豆太にもどる話
- ・いろんな豆太が出てくるね
- ・豆太はどんな子なのかな？
- ・第1場面は「おくびょう豆太」ってなっているね
- ・場面ごとの豆太の様子はどんなかな？

じさまはどんな人なのかな？④

- おくびょう豆太 やい、木い
- ・ぐっすりねむっている真夜中でも
目をさましてくれて、やさしい
- ・たった二人でくらしている豆太がかわいそうで、
かわいいと思っている
- ・六十四の今、岩から岩へのとびうつりだって、
見事にやっける
- ・「シー」と言って、豆太を安心させてくれている
- ・豆太を大事に思っている

豆太

- ・5つにもなつて、一人でトイレに行けない
- ・「じさまあ。」としょんべんにじさまを起こす
- ・じさまがいてと安心できる
- ・じさまを頼りにしている
- ⇒おくびょうな子・こわがりな子

なんで、昼と夜と豆太はちがうのかな？⑤

豆太

- <昼>
- ・木の下に立って、いばっている
- ・明るいし、じさまがそばにいる
- <夜>
- ・モチモチの木がお化けみたいに見える
- ・木がおこっているみたい
- ・モチモチの木につかまりそう
- ⇒昼はいばっている子・元気な子
- 夜はおくびょうな子・こわがりな子

モチモチの木ってどんな木かな？⑥

霜月二十日の晩

- ・霜月二十日の晩にモチモチの木に灯がともる
- ・「山の神様のお祭り」だとじさまが教えた
- ・ゆめみたいにきれい
- ・勇気のある子どもにしか見ることができない
- ・じさまもおとうも見た
- ・豆太にも見てもらいたいいんじゃないかな

豆太

- ・豆太も見たい気持ちがある
- ・はじめっからあきらめて、自分がおくびょうだと思っている
- ⇒おくびょうな子・あきらめのはやい子

初発の感想を交流しよう②

- <豆太について>
- ・豆太はおくびょう
- ・豆太はじさまのために頑張ったから偉い
- ・昼間はお調子者だけど夜はビビリ
- ・じさまのことが大好き
- ・勇気がある
- ・なんでモチモチの木が怖かったんだろう？
- ・なんでモチモチの木の灯を見られたんだろう？
- ・最後、またトイレに行けなくなったのが面白い
- <じさまについて>
- ・豆太のために起きてあげてやさしい
- ・クマみたいな声を出していたところが怖かった
- <モチモチの木について>
- ・夜のモチモチの木はたしかに怖そう
- ・絵の感じも怖く描いている
- ・なんでモチモチの木って名前なの？
- ・豆太がつけたんだよ
- ・なんで夜に灯がつくんだろう？
- ・灯のともったモチモチの木の絵がきれい

学級文庫の充実をはかる。
斎藤隆介作品
「半日村」「花さき山」「三コ」
「ソメコとオニ」「八郎」

文章を読んで理解したことに基づいて、感想をもつことができる。
【思】

感想交流の中で、感想が集中しているところや、ずれのあるところを整理し、かいつくしていききたい問題を明確にしておく。

登場人物の会話や行動、様子、語り手の言葉などに着目して読み、様子や行動、気持ちや正確を表す語彙をゆたかにすることができる。【知】

豆太はなんでモチモチの木の灯を見れたのかな？⑦

豆太は見た

- ・きらきらした
- ・医者様は「灯がついたように見える」と言っている
- ・医者様と豆太でモチモチの木の灯の見え方が違うんだ

豆太

- ・豆太は夢中で医者様を呼びに行ったから
- ・医者様を呼びに行ける勇気があったから
- ・いたくて、寒くて、こわかった ・あきらめていたのがうそみたい
- ・じさまを助けたい優しさがある ・じさまを死なせないから勇気が出た
- ・勇気が出たから、モチモチの木の灯が見れた
- ・モチモチの木が勇気のある子だと認めてくれた
- ⇒勇気のある子・優しい子・やるときはやる子

「豆太」の優しさと勇気が行動に表れていることを読んでいく。

どうして豆太はまたしょんべんにじさまを起こすのかな？⑧

弱虫でも、やさしけりや

- ・じさまは、かわらず優しいまま
- ・じさまが「勇気のある子どもだった」とほめた

豆太

- ・「じさまあ。」としょんべんにじさまを起こす
- ・じさまが元気になったから最初の豆太に戻っちゃった
- ・じさまが元気になったから、また甘えん坊に戻った
- ・じさまのピンチじゃないから勇気が出ない
- ・霜月二十日の晩じゃなければ灯は見られないから
- ・5才だし親もいないから甘えたい
- ⇒おくびょうな子・こわがりな子・甘えん坊な子

地の文に着目して「語り手」の「豆太」に対する見方も捉えられるようにする。

豆太はどんな子なのかな？⑨⑩

おくびょうな子

勇気がある子

- <元にもどった>
- ・またせつちんに行けなくなったから
- ・性格が変わったわけじゃないから
- ・じさまが元気になったから戻った

- <心のどこかに勇気を持っている>
- ・ピンチになれば勇気を出すことはできるけど、
またせつちんに行けなくなったから
- ・いざいざというときにじさまの勇気を出せないから

- <もともと勇気があった>
- ・医者様を呼びに行けた
- ・モチモチの木の灯を見ることができた

- <勇気を持つことができた>
- ・じさまを助けたい気持ちから、医者様を呼びに行ったから
- ・最後は戻っちゃったけど、これからはいざとなれば勇気が出せる

学習感想

- ・おくびょうでも大事なときに勇気を出せる豆太は、勇気のある子だと思う
- ・最初と最後で、どちらもおくびょうだけど、心が変わったと思う

行動や様子を表す表現に基づいて考えをもち、友だちと伝え合うことによって、豆太の人物像を捉えることができる。【思】

一人一人の感じ方の違いに着目し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。【態】

学習感想を交流しよう⑪

2. 本時について

本時目標 行動や様子を表す表現に基づいて考えをもち、友だちと伝え合うことによって、豆太の人物像を捉えることができる。

学習活動		主な支援・留意点 ◆評価【観点】
おくびょうな子 元にもどった ・さいこにまだ一人でせうごんにいけないから。 ・また夜のモチモチの木をこわがっているから。 ・せいかくがかわったわけじゃないから。 ・じさまが元気になったから、まだこわがりにもどった。 ゆうきがある子 もともとゆうきがあった ・じさまに「勇気のある子とどった」と言われている。 ・医者様をよびに行けたから。 ・モチモチの木の灯を見ることができたから。 ・モチモチの木に勇気があるとみとめられたから。 心のどこかにゆうきはある ・ピンチになればゆうきを出すことはできるけど、まだせうごんに一人でいけなかつたから。 ・いざというときじゃないとゆうきを出せないから。 ゆうきをもった ・じさまが死んでしまうと思ったから、ゆうきが出た。 ・じさまを助けたい気持ちから、ゆうきを持って医者様をよびに行った。 ・さいこはもどっちゃったけど、これからはいざとなればゆうきを出せる。	豆太はどんな子なんだろう？ ・学習の足跡を残し、話し合うときにふりかえることができるようにする。 ・前時までの読み取りや、叙述をもとにして話し合うことができるようにする。 ・児童から出てきた言葉をもとに、考えの違いが視覚的に捉えやすいように板書を整理する。 ・ネームカードをはることで、自分の立場を明確にできるようにする。 ・複数の性格を選択することもできるよう、留意する。 ・交流の間にネームカードを移動できるようにする。 ・「勇気をもった」や「もともと勇気があった」等の言葉に着目し、それぞれの考えのちよっとした違いに気付けるようにする。 ・本時の最後にまた、「豆太はどんな子か」ノートに書く時間をとる。話し合いを生かした考えが書けるようにする。 ◆行動や様子を表す表現に基づいて考えをもち、友だちと伝え合うことによって、豆太の人物像を自分なりに捉えることができる。【思考・判断・表現】	

これまでに読み取ったことや叙述に基づいて考えを伝え合うことによって、自分の考えと友だちの考えとの共通点や相違点に気づき、豆太の人物像を自分なりに捉える姿をひびき合いの姿とする。「豆太のじさまに対する優しさが勇気を出すもととなったこと」「豆太にも勇気が出せるようになってほしいというじさまの願い」など、学習を通して読み取ったことを振り返ることができるよう、学習の足跡を掲示したり、考えを焦点化するための問い返しをしたりする。また、友だちの考えに出会うことにより、一言で言い切ることのできない人物の多面性に気づくきっかけとなるようにしたい。

3. 実践を終えて

【成果】

子どもたちが単元の初めから思っていた「豆太はどんな子なんだろう？」という思いを大切に、学習を進めることができた。さらに、子どもたちが本文に戻り、根拠をもって自分の考えを発言できていたことは成果であると考えます。

【課題】

本時では「豆太はどんな子なんだろう？」という学習課題から、豆太のことを一言で言い切るのではなく、様々な見方や考えを友だちと交流し、理解しようとする姿を目指して授業を行った。しかし、「豆太が変わったのか」という話し合いが中心になってしまい、学習課題との違いから、発言しづらくなってしまった子が現れてしまった。それは、みんなが意見を出す前に焦点化してしまった教師の出所に課題を感じた。

子どもたちに自由に意見を出させてから、話し合いをしていくことで、一部の子に限られることなく、みんなが参加することのできる話し合いになったのではないかと考える。

学習課題の解決にせまる話し合いを進めるためには、子どもたちの思いを大切にしつつ、教師の出所を見極められる技量を身につけていくことを今後の課題としていきたい。

【ひびき合いについて】

日頃から話し方や聴き方の指導をしてきた。特に、自分の考えを発表するだけでなく、友だちの考えをよく聴くことを重点的に指導してきた。前時までも、子どもたちは、友だちの意見をよく聴こうとする姿勢が見られていた。

しかし、本時では一部の子が自分の考えを言い続けるような場面が多く、たくさんの子が声をあげる場面が見られなかった。それは、教師の意図的指名や出所が適切ではなかったからだと考えられる。一部の子が話し続けているときに、あえて他の子の考えを意図的に聞いてみることで、たくさんの子が活躍して、話し合いがより有益なものになったと考えられる。

子どもたちの考えや思いを見取って、みんなが活躍できる授業を展開していきたい。